

こくみん共済 coop が進める 防災・減災プロジェクト 『もしも』は「いつか」やってくる。『もしもプロジェクト渋谷』をスタート。

2021年3月6日(土) キックオフイベント「もしも会議」をオンライン配信しました。

こくみん共済 coop 〈全労済〉(全国労働者共済生活協同組合連合会 代表理事理事長: 廣田政巳)は、東日本大震災から10年を迎える2021年、これまでの災害対応の中で得た教訓と経験をもとに、更なる防災・減災の普及とネットワークづくりを推進すべく新たな取り組みをスタートします。その一つとして、渋谷区に拠点を構える当会は、渋谷区の協力のもと、皆さまとの共創による防災・減災の普及啓発活動『もしもプロジェクト渋谷 (MOSHIMO PROJECT SHIBUYA)』を始動。3月6日(土)、キックオフイベントとして、プロジェクト発表会およびトークセッション「もしも会議」をオンラインにてライブ配信しました。



■防災・減災プロジェクトとは

こくみん共済 coop は、戦後、人と人とのたすけあいの組織(生活協同組合)として、火災共済から事業を開始し、以来、様々な共済を提供するとともに、万一の災害から命と暮らしを守る防災・減災活動に取り組んできました。

東日本大震災から10年。これまでの災害対応の中で得た教訓と経験をもとに、さらなる防災・減災の普及とネットワークづくりを進めていくため、「防災・減災プロジェクト」をスタートしました。

このプロジェクトでは、災害への備えを「もしもの前」「もしもの備え」「もしもの後」の3つのフェーズで捉え、「もしもの前」では防災・減災の普及啓発、「もしもの備え」では共済の普及促進と災害時の迅速な対応、「もしもの後」では復旧・復興・生活再建に向けた取り組みなどを展開します。また、このことを広く社会に発信するため、TV、WEB サイトや SNS 等のデジタルも活用したコミュニケーションを推進します。

<防災・減災特設ページ> <https://www.zenrosai.coop/bousai-gensai.html>



■共創による防災・減災の普及啓発活動『もしもプロジェクト渋谷』

「もしもの前」の活動のひとつとして、当会の本拠を構える渋谷区で展開する活動が『もしもプロジェクト渋谷』です。本プロジェクトは、こくみん共済 coop、渋谷未来デザイン、渋谷区観光協会の3団体が主催し、渋谷区の後援を受けて実施します。

もしも首都直下地震が起きたら、多くの交通機関がストップし、帰宅困難者は約500万人、避難生活者は約300万人にのぼり、食糧も不足するという被害予測があります。また予期せぬ災害の発生により、75%もの人が思考停止に陥り、適切な行動ができなくなるといわれています。

「もしも」は「いつか」必ず起こるもの。しかし「もしも」に備えれば未来は大きく変わるはずで、本プロジェクトは、暮らす人、働く人、遊ぶ人など、多様な人が集う渋谷を舞台に、一人ひとりが「もしも」の日のために何ができるかを考え、備えることで、レジリエントな街づくりをめざす取り組みです。

■3月6日(土) キックオフイベント『もしも会議』 オンラインライブ配信実施

キックオフイベントとして、プロジェクト発表会とトークセッション『もしも会議』をオンライン配信にて実施しました。

まず、こくみん共済 coop 専務理事 崎田 弘が登壇し、ご挨拶とあわせて「堅苦しいイメージではなく、多くの人に参加してもらえぬ取り組みにしていきたい」と、プロジェクトに寄せる想いをお伝えしました。

その後、渋谷未来デザイン 理事・事務局次長 長田 新子氏、DE Inc. Co-CEO 牧野 圭太氏からプロジェクトの全体像をお話しするとともに、後援している渋谷区長 長谷部 健氏が加わり、渋谷区での防災・減災の取り組みをトーク形式で紹介。さらに、防災・減災の専門家である危機管理教育研究所代表 国崎 信江氏、社会派クリエイティブディレクターとして様々なメディアで活躍中の arca 代表 辻 愛沙子氏を迎え、「もしも、渋谷で大地震が起きたなら」というテーマでトークセッションを行いました。

トークセッションでは、渋谷区が行っている取り組みに触れながら、街中の壁面などに避難場所の方向を矢印で示すアート「アロープロジェクト」に対し、当会専務理事 崎田が「こうしたクリエイティブのチカラも使用した、新しい防災モデルを多様性の街、渋谷からつくることができれば」と発言すると、辻氏からは、「自分が生み出すクリエイティブが、社会のため、誰かのため、自分のためになるということは挑戦しがいがある」「もしも」という言葉は、その先に決められた答えがあるわけではなく、自分で考える挑戦的な言葉でいい」「(防災・減災は) 自分達のアイデアや日常の延長線にあると改めて感じた」等の意見が出されました。

国崎氏からは、本プロジェクトが取り組む「もしもリーダーの創出」について、「いざというとき、みんなが他の人を導けるリーダーになっていくためには、日頃からイメージすること(災害が起きたらどうなるか、どう行動するか)が大切。今回のプロジェクトに参加してみることで、まず興味を持つきっかけができると期待している」との意見が寄せられました。

また、長谷部氏からは、「こうして民間団体にご協力いただけることは心強い」との言葉をいただきました。

締めくくりに、崎田から「より多くの人に参加していただくために、本日のような楽しさと広がりをもった議論が大切。ディスカッションを重ねながら、プロジェクトを進めていきたい」と述べ、手ごたえを感じるキックオフイベントとなりました。



左から渋谷区長 長谷部 健氏、こくみん共済 coop 専務理事 崎田 弘、DE Inc. Co-CEO 牧野 圭太氏、渋谷未来デザイン 理事・事務局次長 長田 新子氏、危機管理教育研究所 代表 国崎 信江氏、arca 代表 辻 愛沙子氏

■「もしもプロジェクト」今後の活動予定

「もしもプロジェクト」は、2021年春季は、次のような活動を展開する予定です。

- 3月11日(木) 2:46 黙祷プロジェクト ※ご取材ご希望の方は以下担当者までお問合せ下さい
被災地である岩手と渋谷を繋いだ2:46 黙祷プロジェクト
渋谷では、ミヤシタパーク屋上から2時46分に黙祷をささげるほか、
防災・減災に関するトークイベントを予定。
その様子は、ミヤシタパーク屋上に設置するビジョンで映し出し、岩手県とも中継します。



■ 5月1日(土)～14日(金) MOSHIMO WEEK SHIBUYA

渋谷という街全体を使い、防災・減災を体験できる様々な取り組みを展開します。
ポスター、フラッグなど震災への意識を高めるサイネージ、防災・減災を学ぶ展覧会「もしも展」や、防災グッズを集めたセレクトショップ「もしもストア」などを展開予定です。



<こくみん共済 coop>

全国労働者共済生活協同組合連合会。

たすけあいの生協として 1957 年 9 月に誕生。「共済」とは「みんなでたすけあうことで、誰かの万一に備える」という仕組みです。少子高齢社会や大規模災害の発生など、私たちを取り巻く環境が大きく変化しているなか、こくみん共済 coop は、「たすけあい」の考え方や仕組みを通じて「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」にむけ、皆さまとともに歩み続けます。



<ご掲載・ご取材に関するお問い合わせ先>
株式会社ユース・プランニング センター 担当:大竹、田邊、安東
Tel:03-3406-3411 / Fax:03-3499-0958
大竹 携帯 080-8846-7806 / t-otake@ypcpr.com
田邊 携帯 090-7900-4611 / k-tanabe@ypcpr.com